

日交研シリーズ A-704

平成 28 年度自主研究プロジェクト

「国際的な観光競争における最適政策に関する研究」

刊行：2017 年 10 月

国際的な観光競争における最適政策に関する研究  
On the Optimal Policy of International Tourism Competition

主査：黒田 達朗 (名古屋大学大学院環境学研究科教授)

Tatsuaki KURODA

要 旨

グローバル化の進行と各国の経済成長を背景として、観光が通常の財の輸出入による国際貿易と同様の経済効果を有することが、ようやく一般にも広く認識されるようになってきている。観光産業の顧客である観光客の意思決定動機の主要な部分は、当然訪問先の自然、伝統、文化、レジャー施設等における差別的な特色であり、アクセスや治安を始めとする社会インフラの提供・改善を通じて、公共部門が関与できる領域も大きいと思われる。そこで、本研究では、それぞれの国民が自らの所得を用いて、自国と他国に観光に訪れる選択およびその条件を前提として、2 国の政府がそれぞれの国民への課税収入を財源として、自国だけでなく他国からの観光客を誘致するための社会インフラを整備する状況をモデルによって分析し、その経済的含意を得ることを目的としている。

両国の政府は自国の社会的厚生を最大化するように税率を決定する。各政府が徴収した税収は治安の改善、公共施設の整備、自然保護、景観の形成などに用いられる。両国の観光産業はそれぞれの観光施設あるいはサービスに対する価格、例えば入場料を、それぞれの利潤最大化を目的に設定する。両国の消費者はそれらを前提条件として、自己の効用最大化を目的として、自国および他国の観光に費やす金額（旅行回数）を決定するという 3 段階の連続ゲームを設定した。ここでは、観光産業がリーダーとなる場合と政府がリーダーとなる場合のそれぞれのケースにおける分析を行った。この結果、前者では、国民の選好が対称的であれば、政府も観光業者が価格を低く設定する競争を促進するように行動する。また、後者の場合は、その逆に、観光業者が相対的に高い価格を設定できるように行動することがわかる。また、政府と観光産業の利得行列を用いて、政府がリーダーとなることが、必ずしも自国民の厚生のためにはならない場合もあることなどを明らかにした。

キーワード： ツーリズム、国際競争、連続ゲーム

Keywords : Tourism, International Competition, Sequential game